

令和 8 年度 第 3 回学校運営協議会議事録（発信者ごとの要点議事録）

日時：令和 8 年 9 月 1 6 日（水）
場所：田無第一中学校 校長室
出席者：小野 千代乃委員 紺野 愛子委員 鈴木 隆文委員 鵜野 美代子委員 水野 裕子委員 澤井 稔委員 歌田 多恵委員
欠席者：瀬沼 洋子委員 出席者が過半数を超えているため、本会議は成立
1. 校長挨拶・学校の近況 ・ 夏季休業中は大きな事故等もなく、生徒は元気に 2 学期を迎えている。 ・ 9 月 7 日は教育委員会の判断により臨時休校となった。前日に決定・連絡が行われ、早期に保護者へ周知できたことについて、安全確保の観点から適切な対応であった。 ・ 2 学期は宿泊学習、定期考査、合唱コンクール等の行事を予定している。 ・ 特別支援学級では南房総方面への 1 泊 2 日の宿泊学習を実施予定。 ・ 通常学級では定期考査を実施。特に 3 年生については進路にも関わる重要な時期となる。 ・ 10 月にはルネこだいらで合唱コンクールを予定。委員にも参観を呼びかけた。 ・ 7 月に実施した生徒・教職員・保護者対象の学校評価アンケートについて、この後結果を報告し、意見交換を行う。
2. 授業参観・情報モラル教育について ・ 今回の授業参観では、道徳の授業として「情報モラル」を扱った。 ・ SNS 等のデジタル機器が生徒の生活に深く入り込んでおり、学校や家庭から見えにくい生徒同士のやり取りも増えているため、情報モラル教育の重要性が高まっている。 ・ 当初予定していたセーフティ教室については講師の都合等により予定を変更し、今回は道徳の授業の中で情報モラルを扱った。
道徳教育について ・ 中学校の道徳では、学習指導要領に定められた 22 の内容項目を、年間を通して扱っている。 ・ 道徳は単に「ルールを守る」と教えるのではなく、生徒自身が考え、他者の意見を聞きながら、自分の価値観を深めていくことを重視している。 ・ 情報モラルについても、ルールを覚えるだけではなく、「自分はどうするのか」というところまで考えさせることが重要。 ・ 情報モラルは道徳だけでなく、学校教育全体、さらに家庭との連携を通して取り組む必要がある。 ・ 「思いやり」などの気持ちを持つだけでなく、それを実際の行動に結びつける力を育てたい。

授業参観者からの主な意見

- SNS やグループ LINE では相手の表情が見えないため、自分の言葉が相手にどう伝わるかを考えることが重要。
- 生徒が SNS 上での言葉の伝わり方について真剣に考えている様子が見られた。
- 3 年生の授業では、写真投稿のリスクについて生徒の認識はある程度共通していたが、「なぜ危険なのか」「自分自身にどのような影響があるのか」まで考えることには課題があるとの意見があった。
- 「デジタルタトゥー」などの用語や知識は知っていても、それがなぜ問題なのか、自分自身の生活にどう関係するのかまで考えさせることが今後の課題。
- 生徒が自分自身に置き換えて考えられるよう、教員が具体的な場面や危険性を示しながら導くことが重要との意見が出された。
- 道徳の授業は生徒だけでなく、参観する大人自身も考えさせられる機会になっているとの感想が複数あった。
- IJ 学級等についても、実際に授業を見学することで新たな理解につながったとの意見があった。

3. 学校評価アンケート結果

生徒・保護者・教職員を対象として実施した学校評価アンケートについて報告があった。

① 学習面

- 「子どもが自分に合った学習方法を工夫しているか」という保護者向け質問では、約 35% が否定的な回答。
- 一方、生徒側では 80% 以上が肯定的な回答となっており、生徒と保護者との認識に差が見られた。
- 学校では授業や三者面談、学習計画表等を通して学習方法を伝えているが、その取り組みが保護者に十分伝わっていない可能性がある。
- 土曜公開授業等を活用し、保護者に実際の授業や生徒の学習の様子を見てもらうことで、学校での取り組みへの理解を深めてもらいたいとの説明があった。

② 挨拶・規則・思いやり

- 「決まりを守り、思いやりのある生徒を育成する」という項目については、生徒・保護者ともに 90% 以上が肯定的。
- 今後も挨拶や規則を守る姿勢について継続して指導する。

③ 心身の健康

- 全体として肯定的な回答が多かった。
- 一方、「健康や体力向上を意識して生活しているか」について、保護者の約 2 割が否定的。

- 睡眠、食事、運動、電子機器の使用時間など、家庭での生活習慣について心配する保護者がいると考えられる。
- 学校では、生徒自身が生活習慣を設定・振り返る機会を設け、三者面談等でも家庭と連携していく。

④ 地域・ボランティア活動

- 「ボランティア精神を持って当番活動や地域のボランティア活動に参加しているか」という質問は、全項目の中で最も否定的な回答が多く、約 40%。
- 「当番活動に責任を持って取り組むこと」と「地域ボランティアへの参加」を分けて質問するなど、今後は設問の見直しも検討する。
- 11 月頃を目途に、生徒が地域に関わるボランティア活動を企画する予定。
- 毎年行っている落ち葉掃き等を、学校周辺の地域にも広げる案が検討されている。

⑤ いじめ・相談体制

- 「いじめがなく安心して過ごせているか」について、肯定的ではない回答が約 1 割あることが話題となった。
- 「分からない」等の回答も含まれるため、回答の背景については慎重に捉える必要がある。
- 「先生が生徒の意見に耳を傾け、相談に乗ってくれる」という項目についても同程度の回答が見られ、引き続き生徒が安心して相談できる環境づくりが重要との意見が出た。
- 不登校との関連も考えられるため、少数であっても該当する生徒に目を向ける必要があるとの意見があった。
- 今年度から設置した別室対応について、教室には入れなくても別室には登校できる生徒がいるなど、少しずつ機能してきているとの報告があった。
- 別室対応だけで全てが解決するわけではないため、教員による相談・支援等と併せて取り組んでいく。

4. ボランティア活動についての意見交換

- 「ボランティア」とは何かについて、参加者からさまざまな意見が出された。
- 「人のために大変なことをすること」だけでなく、自分がやりたいことを通して他者や地域に貢献することもボランティアとして捉えられるのではないかと意見。
- 活動内容によって生徒の興味や参加意欲が異なるため、楽しさや達成感を感じられる活動を設定することが重要。
- 活動後に「やってよかった」「ありがとうと言われてうれしかった」と感じる経験を積むことが、ボランティアへの意識を育てる上で重要との意見があった。
- 校庭等の草取りや落ち葉掃きについては、作業量や安全面を考慮すると、生徒のボ

ランティアだけでは対応しきれない部分もあるとの意見。

- 学校の環境整備については、学校・地域・業務員等が役割分担しながら取り組む必要がある。

5. 情報交換

育成会行事

- 秋に予定しているミニ運動会が市民祭りと同日になったため、開催時期を12月頃に変更する可能性について検討中。

サバイバル炊飯

- 11月頃に、校庭で「サバイバル飯炊き」の実施を計画。
- 空き缶を利用し、牛乳パックを燃料として炊飯する体験を通して、災害時にも活用できる方法を学ぶ企画。
- 中学生ボランティア
- の参加希望が現時点では少ないため、申込期限を9月30日まで延長。
- 学校からも放送等で生徒へ参加を呼びかける予定。
- ボランティア活動等の経験は、高校進学時の活動実績として活用される場合があるとの確認があった。
- 地域の方々と交流しながら活動することで、生徒が達成感を得られる機会になるとの意見があった。

6. 今後の予定

- 10月：講師を招いたセーフティ教室を5時間目に実施予定。詳細決定後、委員へ案内。
- 10月中旬頃：合唱コンクール（ルネこだいら）
- 11月7日：道徳地区公開講座
- 11月頃：校内・地域ボランティア活動を予定
- 12月：学校評価アンケートを実施予定
- 3月6日：展示会

7. 主な確認・今後の課題

- 情報モラルについて、知識やルールの理解だけでなく、生徒が「自分ならどうするか」まで考えられる授業を継続する。
- 学習方法や生活習慣について、学校と家庭の認識差を縮めるため、授業公開・三者面談・学習計画表等を活用して情報共有を進める。
- いじめや相談体制について、少数の否定的回答も含め、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを継続する。
- ボランティア活動については、活動の目的や意味を生徒に分かりやすく伝えるとと

もに、達成感や地域との交流を得られる活動を検討する。

- 12月の学校評価アンケートでは、今回の結果を踏まえた改善状況を確認する。